

# 平成29年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会

日時：平成30年 2月 7日（水）午前10時～10時50分  
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 報告事項

- (1) 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について（資料1）

## 4 議 題

- (1) 議案第1号  
第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画について（資料2）
- (2) 議案第2号  
第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項について（資料3）
- (3) 議案第3号  
平成29年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算について（資料4）

## 5 その他

- (1) 今後の日程について（資料5）

## 6 閉 会



## 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

“手話の聖地”鳥取県に全国の高校生が集結し、手話を使ったパフォーマンスの表現力を競い合う「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）を下記のとおり開催しました。

### 記

#### 1 大会の概要

- (1) 開催日時 平成29年10月1日（日）午前9時15分から午後5時まで
- (2) 開催場所 とりぎん文化会館 梨花ホール（鳥取市尚徳町101番地5）
- (3) 演技内容 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、落語などのパフォーマンス
- (4) 参加資格 全国の高等学校・特別支援学校高等部等に在籍している高校生
- (5) 司会、ゲストパフォーマー、審査員

内容	氏名（敬称略）	よみ	役職等
演技司会	早瀬 憲太郎	はやせ けんたろう	学習塾「早瀬道場」代表
	三城 千咲	みき ちさき	モデル・手話パフォーマー
総合司会	近藤 泰郎	こんどう たいろう	NHK鳥取放送局アナウンサー
ゲストパフォーマー	SoulImpression × SoulOBOG	そうるいんぷれっし よん	聴覚障がい者が在籍する国立大学法人筑波 技術大学産業技術学部のダンスサークル
審査員長	庄崎 隆志	しょうざき たかし	演出家・俳優
審査員	今村 彩子	いまむら あやこ	映画監督
	小中 栄一	こなか えいいち	全日本ろうあ連盟副理事長
	古川 鈴子	ふるかわ すずこ	手話通訳士・社会福祉士
	中野 佐世子	なかの さよこ	手話ニュースキャスター・手話通訳士
	高橋 千枝	たかはし ちえ	鳥取大学地域学部准教授・臨床発達心理士
スペシャルサポーター	山根 千佳	やまね ちか	タレント（本県出身）

- (6) 来場者数 約1,800人
- (7) 大会の観覧 自由席（入場無料）
- (8) 出場チーム 予選参加申込みのあった54チーム（55校）（27都道府県）のうち、予選審査を通過した20チーム（21校）（14都道府県）の精鋭が大会に出場

#### [内訳]

北海道1、宮城県1、東京都2、神奈川県2、石川県1、山梨県1、愛知県3、京都府1、奈良県2、鳥取県2、広島県1、福岡県1、熊本県1、沖縄県1

（鳥取県からは、鳥取城北高等学校及び境港総合技術高等学校の2校が出場した。）

- (9) 同時に開催した催し

- ア あいサポート・マルシェ（1階フリースペース等）  
障がい福祉サービス事業所による飲食物や雑貨等の販売
- イ 手話カフェ（1階展示室）  
米子市にある手話カフェ sign によるドリンク類の提供。
- ウ 鳥取聾学校作品（写真）展（1階展示室）  
鳥取聾学校生徒による写真作品の展示コーナー
- エ ウェルカムステージ（1階フリースペース）  
今年の鳥取しゃんしゃん祭りでグランプリに輝いた百花繚蘭（ひゃっかりょうらん）による傘踊り
- オ 県内高校生（2校）の実習製品等の販売コーナー（1階フリースペース）  
鳥取湖陵高等学校（農作物等）、境港総合技術高等学校（缶詰等）が出店
- カ 鳥取市在住デザイナーClara（くらら）氏のアートワークショップ（1階展示室）
- キ 公式グッズ販売コーナー、鳥取県特産品販売コーナー、鳥取県聴覚障害者協会販売コーナー、協賛企業PRコーナー（1階フリースペース）
- ク 手話パフォーマンス甲子園紹介コーナー（1階・2階会場入口前）  
大会の紹介や過去の大会の様子を伝えるパネル展示、過去の大会の映像コーナー

- (10) サテライト会場（小ホール）

約400席のサテライト会場を小ホールに用意し、大型スクリーンにより大会の様子を放映した。

出演者の集合写真



## 2 表彰チーム・審査方法

### (1) 入賞チーム及び表彰内容

表彰内容	チーム名	贈呈
優勝	奈良県立ろう学校 ※ (奈良県)	表彰状、鳥取砂丘の砂メダル(金)、優勝旗、 副賞(東京ディズニーリゾートパスポート+旅行券)
準優勝	きょうわ 杏和高等学校(愛知県)	表彰状、鳥取砂丘の砂メダル(銀)、盾、 副賞(鳥取県特産品)
第3位	大泉桜高等学校・ 立川ろう学校(東京都)	表彰状、鳥取砂丘の砂メダル(銅)、 副賞(鳥取県特産品)
審査員特別賞	まわし 真和志高等学校(沖縄県)	表彰状、副賞(鳥取県特産品)
全日本ろうあ 連盟賞	くまもとろう 熊本聾学校(熊本県)	各団体から、表彰状及び副賞が贈呈
日本財団賞	鳥取城北高等学校 (鳥取県)	
鳥取県聴覚 障害者協会賞	たつるはま 田鶴浜高等学校(石川県)	

※ 「命のつながり」をテーマにした独特でユーモアのある演劇で、1人1人が一生懸命演じることができたことに加え、その技術力の高さが評価され、見事優勝に輝いた。

### (2) 審査方法(6名の審査員の審査得点の合計は最大300点。)

種別	人数	審査項目	配点
ろうの審査員	3名	○手話の正確性・分かりやすさ	30点
		○演出力・パフォーマンス度	30点(合計60点)
聞こえる審査員	3名	○演出力・パフォーマンス度	40点

表彰式(優勝)



チーム演技の様子



## 3 交流会の開催

大会前日の夜、出場高校生や司会、審査員などの大会出演者や来賓、関係者一同が会する交流会(立食パーティー形式)を開催した。

- ア 開催日時 平成29年9月30日(土) 午後6時から8時まで
- イ 開催場所 ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間(鳥取市今町二丁目153番地)
- ウ 出席者 出場高校生、チーム引率者、1(5)の出演者、来賓、その他関係者(約250人)
- エ ゲスト 大阪パントマイムグループ

(1978年に聴覚障がい者によって結成。今までに全世界で約600回公演の実績あり。)

交流会の様子1



交流会の様子2



## 4 第5回大会の開催

今年秋の開催を見据え、平成29年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会にて、開催を決定する。なお、よりよい大会を目指し、手話パフォーマンス甲子園実行委員会の各委員や関係団体、出場チーム等からいただいたご意見等を踏まえ、第5回大会の開催に向けて改善に努めていきたい。

## 5 その他

- (1) 大会当日は、来場できない全国の方々を対象に、大会の様様について公式動画チャンネル (You Tube) 上でライブ中継を行った。
- (2) ステージ中央に大型LEDモニターを設置し、登壇者や手話通訳者、要約筆記を一体的に表示させた。また、高校生の演技中は手話通訳及び要約筆記は行わないが、演技中の台詞や歌詞等には字幕を必ず表示させることをルール化した。さらに、ステージ両袖にはステージの拡大映像 (演技者や手話等をアップで見ることが可能) 及びステージ上で現在何が行われるかが分かる文字情報を表示するスクリーンを新設した。その他、視覚障がい者向けの音声ガイドの実施や、ヒアリング (磁気) ループの案内を行うなど、共生社会を目指す大会の取組の一環として、情報保障の充実を図った。
- (3) 障がい者や怪我等で歩行が大変な方、妊婦の方などが利用できるハートフル席を会場の1階席前方スペースに用意した。(ステージ上の手話や要約筆記を間近で見ることできることや、入館後に階段を昇り降りすることなく着席することが可となる席。)
- (4) 絵かきの門 秀彦 (かど ひでひこ) 氏 (聞こえる人) が審査員の予定だったが、やむを得ない事情により、大会当日鳥取県に来ることができなくなったことから、1 (5) のとおり、急遽、審査員を古川 鈴子氏に変更した。
- (5) 手話パフォーマンスグループ HANDSIGN (ハンドサイン) の『僕が君の耳になる』を公式テーマソングに採用し、プロモーションで活用した。また、大会中、同曲のプロモーション映像を放映するとともに、リーダーの TATSU 氏に同曲に込められた思いを語ってもらった。
- (6) 大会当日、鳥取駅におもてなしブースを設置し、大会及び会場の案内や観光PRを行った。
- (7) 11月5日 (日) 午後4時30分から、日本海テレビ (日本テレビ系列) で60分間の大会のダイジェスト放送が行われた。
- (8) 11月11日 (土)、18日 (土) の2週にわたって、NHK Eテレ“ろうを生きる難聴を生きる”にて、大会に出場した大泉桜高等学校・立川ろう学校 (いずれも東京都) の合同チームと鳥取城北高等学校 (鳥取県) の2チームを密着したドキュメンタリーが全国に向けて放送された。大会の様様を専門的に扱う番組としては、初めてとなる全国放送が実現したものの。

優勝した奈良県立ろう学校



準優勝した杏和高等学校





## 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画

- 1 目的 ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。
- 2 日程 **平成30年秋（開催期間：1日）**
- 3 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 4 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- 5 特別協賛 日本財団
- 6 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 7 後援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、米子市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM
- 8 参加資格 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・特別支援学校高等部・高等専門学校（3年生まで）・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒（校長の推薦書が必要）
- 9 内容 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才など
- 10 出場 予選審査会を通過した20チーム
- 11 スケジュール
  - (1) 開催決定 平成30年2月7日（水）
  - (2) 申込期間 平成30年5月21日（月）～7月6日（金）（必着）  
※ 予選審査動画の提出期限：7月19日（木）
  - (3) 予選審査会 平成30年8月2日（木）～3日（金）（鳥取市内で開催）  
※ 予選審査動画の視聴による審査（審査員4名）
  - (4) 本大会

日時	平成30年 <u>  </u> 月 <u>  </u> 日（日）午前9時15分～午後5時（時間は予定）
場所	米子コンベンションセンター 多目的ホール（鳥取県米子市末広町294番地）
プログラム	1 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介） 2 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内） 3 ゲストパフォーマーによる手話パフォーマンス 4 審査結果発表（審査員6名） 5 表彰式（賞状等授与） 6 総評 7 閉会
収容人数	最大席数 2,004席



※ 前日の   月   日（土）に同会場にてリハーサルを行う。

- (5) 表彰 優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞  
 ※ なお、上の受賞チームを除く本大会出場チームにも“梨花賞”を授与する。

## 12 交流会

日時	平成30年 <u>  </u> 月 <u>  </u> 日（土）午後6時～午後8時（時間は予定）※本大会前日
場所	鳥取県西部地区（予定）
参加者	出場チーム（生徒、引率者） 出演者（司会、審査員、ゲストパフォーマー） 来賓 実行委員会委員 その他大会関係者
プログラム	挨拶、乾杯 出場チーム抱負 出場チームへのエール ゲストアトラクション 歓談、交流
予定人数	250名



## 13 その他

### (1) 大会への参加申込みについて

昨年10月に開催した第4回大会は、54チーム（55校）の予選参加申込みがあったが、前回（第3回）大会を下回ってしまった。第5回大会に向けては、第3回大会を越える参加申込みが実現するよう積極的に広報活動を行い、全国の高校生の参加を働きかけていきたい。

[過去の大会の予選参加チーム数の実績]

大会名	第1回大会	第2回大会	第3回大会	第4回大会
予選参加チーム数	41チーム(41校)	47チーム(50校)	61チーム(65校)	54チーム(55校)

### (2) 大会への来場について

第5回大会についても、第4回大会（とりぎん文化会館 梨花ホール）と同様、県内最大となる2,000人規模の収容人数を誇る会場での開催となる。第4回大会では、これまでの状況と異なり空席が目立つ時間帯があったことから、引き続き、自由入場制とすることで気軽に大会を観覧できるようにするとともに、全国から多くの方に御来場いただけるよう積極的に広報を行う。

### (3) 全国放送について

昨年11月、大会の様様を単独で扱う専用番組としては、初めての全国放送が実現し、第4回大会の出場校に焦点を当てたドキュメンタリーがNHK Eテレ“聾を生きる難聴を生きる”の番組にて、2週にわたって全国放送された。今後も継続的に番組が放送されるよう働きかけを行っていくとともに、第5回大会に向けては、全国的なPR効果（参加申込み及び来場者の増加）を期待したいところ。

### (4) 情報保障の充実について

共生社会の実現を目指す大会の名に恥じぬよう、聞こえる・聞こえないにかかわらず楽しんでいただける大会を目指し、情報保障コーディネーターチーム（手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議委員等で構成）を中心に、情報保障の充実に向けてさらなる改善に取り組んでいきたい。

### (5) 協賛について

第4回大会では、25企業・団体及び12名の個人の方から、過去最高となる計1,671千円の協賛（その他、60万円相当のマグロの解体ショーや3万円相当の浴衣等の提供あり）をいただいた。第5回大会に向けて、引き続き多くの企業等から大会の趣旨に賛同いただき、協賛を得られるよう働きかけを行うとともに、協賛をしやすいよう制度の改善等も行いたい。

なお、第4回大会で初めて、会場にて募金の呼びかけを行った結果、総額11,441円の募金をいただいた。こうした取組は、単に募金が集まるというだけにとどまらず、募金行為を通じて、募金者に大会への愛着を持っていただく効果も考えられることから、積極的に実施していきたいところ。



## 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項

1. 目的 ろう者とう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。
2. 大会概要
  - (1) 大会名 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「本大会」という。）
  - (2) 日時 平成30年 月 日(日) 午前9時15分から午後5時まで（時間は予定）
  - (3) 会場 米子コンベンションセンター 多目的ホール（鳥取県米子市末広町294番地）
  - (4) 出場 予選審査を通過した20チーム
  - (5) 内容 以下のとおり
 

①開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介）
②出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内）
③ゲスト演技（手話パフォーマー）
④審査結果発表（審査員6名）
⑤表彰式（賞状等授与）
⑥講評
⑦閉会
3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
5. 特別協賛 日本財団
6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
7. 後援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、米子市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM
8. 参加資格
  - (1) 平成30年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）、特別支援学校高等部、高等専門学校（3年生まで）、専修学校及び各種学校（修業年限が高等学校と一致している生徒に限る。）に在籍していること。
  - (2) 本大会に参加することについて、校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。
  - (3) 本大会への参加に当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
  - (4) 原則として、本大会の全日程及び本大会前日のリハーサル及び交流会に参加できること。

## 9. チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、演技の補助者や必要に応じてチームの介添え者を含めることとする。人数は最大で生徒 20 人以内、引率者 10 人以内とする。なお、同一校からの複数チームの参加申込みは可能とするが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位のチームのみとする。

## 10. 演技内容

- (1) 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話言語を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。なお、審査基準としては、必ずしも音(音声や音楽など)を用いる必要はないことを申し添える。
- (2) 演技時間は、6分以上8分以内とする。なお、予選審査会においては、3分以内の動画を提出するものとする。
- (3) 演技スペースは、間口10メートル、奥行5メートルの範囲とする。
- (4) 情報保障の観点から、演技中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。
- (5) 字幕表示、進行(キュー出し等)、演出(音響・照明等)、通訳等の補助動作を含め、演技は全て生徒が行うこと。引率等、生徒以外の者が演技中に生徒への指示や補助動作を行うことは認めない。
- (6) 演技の補助として、準備に時間を要しない簡素な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。
- (7) スクリーンに表示する内容について、字幕の他、演技のイメージを伝える画像の使用は認めるが、動画の使用は認めない。なお、著作権の発生するものについては、20(11)を参照すること。
- (8) 予選審査における撮影ルール等の取り扱いは、別途提示する。

## 11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、参加申込みチームが提出した演技動画を視聴する方法により、審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

## 12. 参加申込み方法

- (1) 申込期間 平成30年5月21日(月)から7月6日(金)【必着】まで  
※ 予選審査動画の提出期限は、平成30年7月19日(木)【必着】まで
- (2) 提出書類 別紙(省略)のとおり
- (3) 補足事項  
ア (2)の書類は、13.の申込み先まで指定する方法及び期限に沿って提出すること。  
イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添(省略)のとおり取り扱うので、同意の上、参加申込みを行うこと。  
ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は、平成30年7月19日(木)までとする。まずは、(1)の期間中に参加申込みを行うこと。  
エ 例年、申込期間の終盤に参加申込みが集中する傾向があるが、5月21日(月)から参加申込みを受け付けるので、是非、できる限り早期に申込みを行うようお願いしたい。  
オ 参加申込み及び予選審査動画は、各期限日必着とする。思わぬ配送遅滞の可能性もあることから、書類は期限日までに余裕を持って提出するよう務めること。なお、期限日に間に合うか不安がある場合(特に、7月に入って(2)の書類を郵送しようとする場合)は、必ず13.の問合せ先まで連絡すること。また、期限日を過ぎて参加申込みの書類が届き、何とかならないかという相談を受けるケースがあるが、一切認められないので留意すること。(このような事態を防ぐため、期限まで余裕がない場合は、提出前に13.の問合せ先に連絡し、適切な指示を受けることが望ましい。)

## 13. 申込み先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地

手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内。以下「事務局」とする。)

電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：[s-koushien@pref.tottori.lg.jp](mailto:s-koushien@pref.tottori.lg.jp)



14. 参加料 不要

15. 助成金

出場チーム（生徒、引率者）に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。

- (1) 交通費（領収書必要）  
実費相当額を助成（1チーム当たり 250,000 円を上限とする。）
- (2) 宿泊費（領収書必要）  
実費相当額を助成（1チーム当たり 85,000 円を上限とする。）

16. 表彰

表彰区分は次のとおりとする。

- (1) 優勝（賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。）
- (2) 準優勝（賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。）
- (3) 3 位（賞状、メダル、副賞を授与する。）
- (4) 審査員特別賞（賞状、副賞を授与する。）
- (5) 全日本ろうあ連盟賞
- (6) 日本財団賞
- (7) 鳥取県聴覚障害者協会賞  
※ その他、上の受賞チームを除く本大会出場チームに“梨華賞”を授与する。

17. 予選審査会

- (1) 日程 平成 30 年 8 月 2 日(木)～3 日(金)
- (2) 場所 鳥取県鳥取市内で開催
- (3) 内容 参加申込みチームが提出した予選審査動画の視聴により審査を実施し、本大会に出場する 20 チームを選出する。
- (4) 結果 平成 30 年 8 月 3 日(金)に審査結果発表会を行う（公開。ライブ中継あり）。なお、発表会終了後、公式ホームページ上に審査結果を掲載する。
- (5) その他 上記(4)の発表会時に、本大会の各チームの演技の順番及び選手宣誓を担当するチームを抽選で決定することとする。（本大会出場チーム発表後に、抽選を行うこととする。）

18. 交流会

- (1) 日時 平成 30 年 月 日(土)午後 6 時から 8 時まで（時間は予定）
- (2) 場所 鳥取県西部地区
- (3) 内容 出場チームやその他大会関係者が一同に会し、食事を交えて参加者同士の交流を深めるもの。

19. スケジュール

平成 30 年 2 月 7 日(水)	本大会の開催決定
○月○日(○)	本大会の開催日及び開催要項公表
5 月 21 日(月)	参加申込み受付開始
7 月 6 日(金)	参加申込み締切
7 月 19 日(木)	予選審査動画の提出締切
8 月 2 日(木)	予選審査会
8 月 3 日(金)	予選審査会（結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チーム決定）
8 月 31 日(金)	ヒアリングシートの提出（演技内容の詳細（シナリオ・楽曲等）の報告）
○月○日(○)	リハーサル（本大会と同会場）、交流会（会場未定）
○月○日(○)	本大会（米子コンベンションセンター 多目的ホール）

20. その他

- (1) 参加者の交流を深める目的であることから、本大会前日の 月 日(土)に開催する交流会は、原則として参加すること。（参加費は不要。）

- (2) 月 日(土)に本大会と同会場ですべてのチームがリハーサルを実施する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、本大会の発表順を基本に事務局にて指定することとする。また、できる限りの配慮は行うが、当日の午前中からリハーサルを実施する関係で、月 日(金)の宿泊が必要な場合があるので、承知すること。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 演技上のセリフや歌詞等に対応させた字幕を必ず付与すること。なお、演技の字幕は、予選審査動画においては映像の中に、本大会においては舞台の後ろに設置するスクリーンに表示させること。また、本大会における字幕の表示はパフォーマンスの表現の一環であることから、自ら行うこと。なお、演技中は、主催者側でセリフの要約筆記等を行わない。
- (5) 演技で使用する小道具及び会場にない設備を使用（特殊な照明や音響等）する場合（準備が1分以内に完了できるものに限る。）は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすることとする。
- (6) 舞台上の演技者が演技の主体となるように構成すること。なお、演技者とスクリーン映像の視聴は両立しないことを前提に、あくまで演技者に観客の目を向けさせるような構成に努めるとともに、スクリーンの使用は字幕の表示を中心に、画像の使用を必要最小限とすることが望ましい。
- (7) 歌唱を行う際は、発話が困難な場合を除き、CD音源や事前収録した音源を歌唱に利用する（いわゆる口パクやかぶせ）のではなく、是非、自ら発声する方法で本番（予選審査を含む。）に挑戦してほしい。なお、CD音源や事前収録した音源の歌唱利用を禁止するわけではないので、申し添えておく。
- (8) 本大会の演技は、後日、手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル(YouTube)上に、全て公開する。
- (9) 本大会において演技中にCD音源を使用する場合、インターネット(YouTube)上での配信について著作権者の許可が得られないものについては、CD音源部分の音声（歌唱やセリフ等）を消去した上で本大会当日のライブ映像及び後日公開する映像を配信することとする。なお、各チーム等が作成した音源（ピアノやブラスバンド伴奏、生徒の合唱等。CD音源が含まれないもの。）については、著作権及びYouTube上、音声を消去する必要がない（ただし、音源の作成者の了解が得られたものに限る。）ことから、その音源も含めてライブ映像等を配信することができるので、是非検討すること。
- (10) 演技時に自校の完全なオリジナル作品ではない著作物を引用等する場合（シナリオや美術道具、ダンス等）は、会場での上演や、本大会当日のライブ配信、大会後の演技映像の公開にあたって、著作権を侵害することのないよう自校において事前に対処しておくこと。なお、音楽については(9)のとおりだが、楽曲の改変（歌詞を変えたり、編曲するなど）に該当する場合は、著作権者の許可が必要となるため、留意すること。
- (11) 演技中、著作権が発生する画像等をスクリーンに表示させたい場合は、著作権を侵害することのないよう自チームにて会場、ライブ配信及び大会後の公開映像での当該画像等の使用について、全て著作権者の許可を得ること。なお、このことから、可能であれば自チームで制作した著作権の発生しない画像等を使用することが望ましい。
- (12) 高校生による手話言語の祭典であるという観点から、演技時だけではなく、演技後のインタビュー時の応答や、交流会での各チームの発表、その他様々な発表の機会や交流の場面においても、各自ができる範囲で（少しでもいいし、間違ってもいいので、）是非、積極的に手話言語の使用に挑戦してほしい。
- (13) 本大会出場にあたっては、出場チームが確実に宿泊できるよう宿泊先の斡旋を行う予定。（利用は任意）
- (14) 引率代表者は、事務局との連絡調整を担当すること。なお、主に電子メールにて頻繁に連絡等を行うこととなるため、参加申込み後は小まめに電子メールの受信を確認するよう務めること。
- (15) 本大会出場チームには、予選審査結果発表後に様々な資料等の提出をお願いすることとなる。この時期が夏休み及びお盆期間と重なるので、引率代表者は事務局及びチーム内の円滑な連絡調整ができるよう留意すること。
- (16) 予選参加申込み及び本大会出場に係る事務局への提出物は、返却しない。

## 平成29年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算について

## (1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	補正額	補正後 累 計	主な補正理由
助成金	33,580,000	0	33,580,000	
負担金	13,824,000	△9,500,000	4,324,000	精算（実績）に伴う減 （お成りがなかったことによる）
協賛金	1,400,000	271,000	1,671,000	精算（実績）に伴う増 （25企業・団体、12名）
手数料	120,000	30,000	150,000	精算（実績）に伴う増 （応援自動販売機手数料）
雑入	180,000	△35,000	145,000	精算（実績）に伴う減 （寄付金・預金利息）
前年度繰越金	889,355	0	889,355	
計	49,993,355	△9,234,000	40,759,355	

## (2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	補正額	補正後 累 計	主な補正理由
実行委員会運営費	698,000	△198,000	500,000	精算（実績）に伴う減 （実行委員会開催経費等）
広報宣伝費	7,000,000	△1,220,000	5,780,000	精算（実績）に伴う減 （広告料、委託業務への振替等）
大会開催費	7,735,355	1,744,000	9,479,355	精算（実績）に伴う増 （会場使用料等）
大会運営委託費	34,560,000	△9,560,000	25,000,000	精算（実績）に伴う減 （お成り業務等）
計	49,993,355	△9,234,000	40,759,355	

資料 5

第 5 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成 30 年 2 月 7 日現在

日 程	内 容	備 考
平成 30 年 2 月 7 日	H29 実行委員会総会	第 5 回大会開催決定、第 5 回大会基本計画、H29 補正予算
平成 30 年 2 月 20 日 (時期未定。2~3 月か?)	H29 第 4 回企画推進会議 第 5 回大会の開催日決定	第 5 回大会開催要項、予選審査・選考方法 同日、第 5 回大会の日程及び開催要項公表
平成 30 年 4 月	H30 実行委員会 (第 1 回書面会議)	H30 収支予算
平成 30 年 4 月	大会チラシ、ポスター等の送付	・全国の高等学校、特別支援学校等 ・各都道府県、政令指定都市 (障がい福祉担当課、教育委員会) ・手話言語条例制定市町 ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成 30 年 5 月 21 日	参加申込み受付開始	
平成 30 年 6 月	H29 実行委員会 (第 2 回書面会議)	H29 収支決算
平成 30 年 6 月	H29 企画推進会議 (第 1 回)	第 5 回大会実施計画、参加申込み状況
平成 30 年 7 月 6 日	参加申込み期限	
平成 30 年 7 月 19 日	予選審査動画の提出期限	
平成 30 年 8 月 2~3 日	予選審査会	動画視聴による審査。3 日に結果発表
平成 30 年 8 月	H30 企画推進会議 (第 2 回)	第 4 回大会実施計画、予選審査結果
平成 30 年秋 (本大会の前日)	第 5 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園リハーサル、交流会	リハ：米子コンベンションセンター 交流会：鳥取県西部地区
平成 30 年秋	第 5 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園本大会	米子コンベンションセンター
平成 30 年 11 月	H30 企画推進会議 (第 3 回)	第 5 回大会開催結果の報告、意見交換
平成 31 年 2 月	H30 実行委員会総会	第 5 回大会開催結果、 次回大会の検討、H30 補正予算
平成 31 年 2 月	H30 企画推進会議 (第 4 回)	次回大会の検討

[参考] 平成 30 年カレンダー



平成 30 年秋に第 5 回大会を開催する (開催期間：1 日)  
※ 本大会前日に交流会及びリハーサルを実施する。

資料提供	
平成29年10月19日(木)	
担当課 (担当)	手話パフォーマンス甲子園 実行委員会 (障がい福祉課 安永)
電話	0857-26-7682



## 手話パフォーマンス甲子園出場校による鳥取県中部地震の復興を願う色紙の提供

昨年10月に発生した鳥取県中部地震（以下「中部地震」という。）からもうすぐ1年が経過しようとしていますが、この度、今月1日（日）にとりぎん文化会館で開催した「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）に出場した中央ろう学校（東京都）の生徒の皆さんから、中部地震の復興を願う色紙を寄せていただきました。

### 記

#### 1 内容

大会に出場した東京都立中央ろう学校高等部生活文化部の生徒の皆さんから、昨年10月に発生した鳥取県中部地震で被災した倉吉市の早期復興を願って、“頑張れ倉吉”“～一日も早い復興を願っています～”というタイトルの色紙を送っていただきました。

色紙には、倉吉市民の方々に向けた生徒の皆さんからの応援メッセージの寄せ書きに加え、かわいらしいトリピーのイラストや鳥取県、鳥取県の名所・特産品が手書きで描かれています。（別紙1のとおり。）

#### 2 同校のコメント

同部の顧問の先生から、以下のとおりの言葉が色紙に添えられていましたので、ご紹介します。

昨年の地震から1年が経とうとしていますが、復興にはまだ時間がかかるとのことでした。そこで生徒たちがまた新たに色紙を作成しましたので、送ります。  
少しでも励みになってもらえたら嬉しいです。

#### 3 補足

- (1) 同校からは、昨年の11月にも「がんばれ倉吉」というタイトルの寄せ書きを送っていただきました（別紙2のとおり）。これは、同校は昨年9月に倉吉未来中心で開催した第3回大会にも出場し、自分たちが過ごした倉吉市や倉吉未来中心が鳥取県中部地震で大きな被害を受けたことに心を痛み、少しでも力になりたいという思いで寄せ書きを送っていただいたものです。この度は、1年越しの生徒の思いが寄せ書きに込められています。
- (2) いただいた寄せ書きは、倉吉市に所在する鳥取県中部聴覚障がい者センター（倉吉市葵町724-15）に今後、お渡しすることとしています。
- (3) 鳥取県中部地震の復興を願う同校の生徒の皆さんの真摯な思いに深く感謝を申し上げるとともに、大会を通じて結びついた鳥取県と全国の高校生との絆の深さを改めて実感でき、大変嬉しく思います。

## 中央ろう学校（東京都）の大会出場メンバー



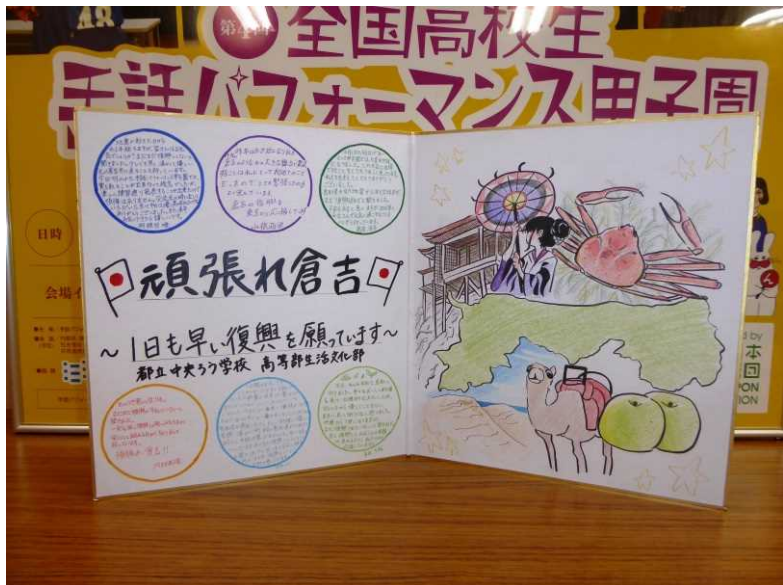
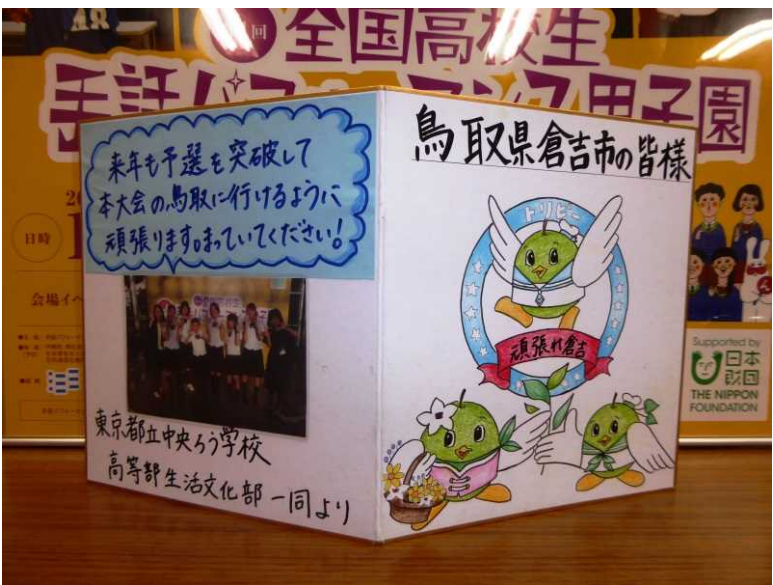
### 【第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園時のチーム紹介文】

東京都立中央ろう学校高等部生活文化部です。生活文化部では、手話歌の練習や部誌作り、茶道体験、調理実習などを行っています。

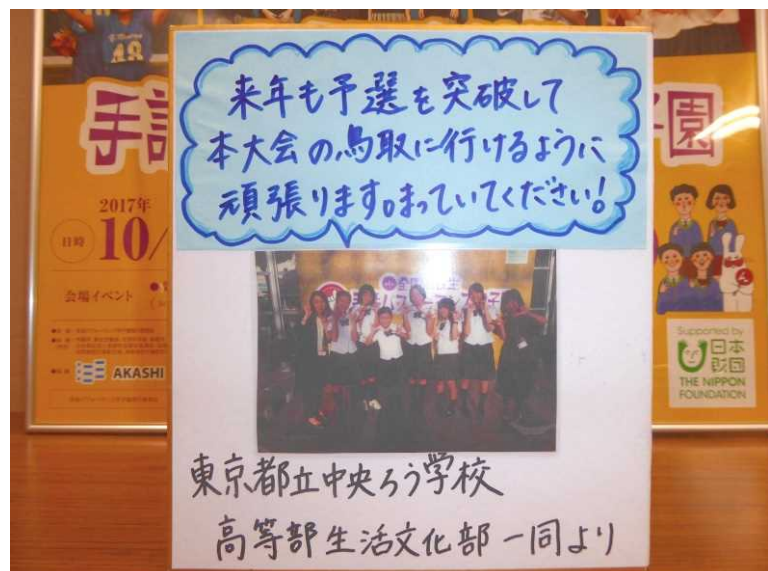
昨年度は、手話パフォーマンス甲子園に出場したり、手話歌アプリコンテストで優勝したりと初めての体験を沢山しました。昨年度の経験や反省を生かして今年度は、劇中心に力を入れていました。「コーダ」という世の中にあまり知られていない人達の日常の一部を演じることで「コーダ」の人達の気持ちの変化や心の成長、思いを伝えていきたいです。部員が少ないので一人二役で一生懸命頑張りたいと思っています。

# 中央ろう学校から寄せられた色紙

## ○全体の様子



## ○個々の内容



○寄せ書きの拡大

地震が起きた日から  
丸1年経ちますが皆さんはお元  
気でしょうか？まだまだ復興しない  
聞きました。少しでも早く温かい優しい  
元の倉吉市に戻ることを祈っています。  
今回行われた手話パフォーマンス甲子園では、  
賞を取ることが出来なくて残念でしたが、  
楽しく練習通り発表することが出来たので  
後悔はありません。交流会の時に食  
いただいた食べ物、薄味、美味しかったです。  
ありがとうございます。また来年  
おいでしたら嬉しいです。  
羽根田唯

昨年はお世話になりました。  
倉吉のようなあの大きな舞台上で発表  
することは私にとって初めてのこ  
だったのでとても緊張したのを  
よく覚えています。  
倉吉の復興を  
東京から応援して！  
山根萌菜

10月1日の手話パフォーマンス甲子園では大変お世話  
になりました。この大会に出場  
できたことをとてもうれしく思っています。  
私たちを支えてくださりありがとうございます。  
ごさいました。  
鳥取県中吉野地震から1年になりますが、  
まだ復興途中だと聞きました。  
不安もあると思いますが、旧も早く  
みなさんが元気に過ごせることを  
心から祈っています。  
高田 浩子

# 頑張れ倉吉

～1日も早い復興を願っています～  
都立中央ろう学校 高等部生活文化部

あの地震から早1年。  
まだまだ復興がすすんでいないと  
聞きました。  
一刻も早く復興し町のみなさまが  
安心して眠れる日がくるのを私も  
祈ります。  
頑張れ、倉吉!!  
河村莉理

この間はお会いして  
うれしかったです。手話パフォーマンス甲子園の発表は、賞はと  
りませんでした。でも、みんなの応援が、  
とてもうれしかったです。そして、2泊3日の  
鳥取県を堪能しました。おいしい料理は、優しい  
笑顔、温かい町、本当に鳥取県が大好きです。  
あつた中部地震から1年経ち  
うとしています。また早く復興してみなさん  
が元気に過ごせることを祈っています。  
お聞きしました。皆さんの安全と被災  
地の一日も早い復興を、心より  
お祈り申し上げます。  
肥田心

先日、私は初めて鳥取へ  
行きました。色んなおいしい料理  
を食い、伝統的な文化にふれ、  
街の方から優しくしてもらい、  
本当に良い街だなと感じました。  
地震から1年になりますが、  
まだ復興されていないと聞きました。  
早く復興してみなさんの笑顔  
が戻るように私たちが  
応援しています!!  
安田 千帆





鳥取県の皆様へ

今回は手話パフォーマンス甲子園の事で世話になりました。

21日に地震が起き、来料の天井が崩落してしまわれました。大丈夫ですが、しほれ、町が元気になることを願っています。

河野 暁

鳥取県の皆様へ

手話パフォーマンス甲子園の時はお世話になりました。

倉吉が一番ひどいと言っていて、ショックを受けました。

倉吉は思い出の場所なので、早く復興出来るよう願っています。東京から応援しています！

三宅 菜穂

鳥取県の皆様へ

先日は、第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園を開催して頂き、ありがとうございました。この大会で、自分自身が被災したように感じ、自分の甲の自分思いで、自分自身は被災したように感じました。このように大会は被災した地域への思いを、そのように大会に出場した私たちを支援して下さり、ありがとうございました。その先、自分自身も被災した地域、倉吉市、中心が地震によって、天井が崩れた、倉吉の街並みも大変な状態になっていたりして、ニュースで拝見しました。自分自身も被災した地域、倉吉市、中心が地震によって、天井が崩れた、倉吉の街並みも大変な状態になっていたりして、ニュースで拝見しました。自分自身も被災した地域、倉吉市、中心が地震によって、天井が崩れた、倉吉の街並みも大変な状態になっていたりして、ニュースで拝見しました。

川島 凜

鳥取県の皆様へ

このあつたの手話パフォーマンス甲子園ではお世話になりました。10月27日にあった地震、倉吉市が一番被害が大きかったと聞いて、とても心配になりました。余震が続く中、不安な日も多いと思いますが、安心して日々が1日も早く来ることを、心よりお祈り申し上げます。

樺沢 環

9月の全国高校生手話パフォーマンス甲子園、お世話になりました。

鳥取地震、倉吉の被害が大きかったと報道で知り、不安になりました。

お怪我をされていないで、一刻も早い復興を願っています。

山根 萌

がんばれ倉吉 2016.10.25

鳥取県の皆様へ

九月の時は大変お世話になりました。

鳥取県で震度6という大きな地震が起きたとニュースで聞きました。まさか私達がお世話になった倉吉が一番被害が大きいと聞いてとても心配です。早く元に戻る様に祈っています。

鳥取県の皆様へ

九月の手話パフォーマンス甲子園にて大変お世話になりました。お世話になった会場の崩れ具合をニュースで拝見し、とてもショックを受けました。一日も早く元通りになることを祈ります。

斎藤 紀香

鳥取県の皆様へ

9月の甲子園ではお世話になりました。地震のことを知って、驚きました。まさか倉吉市で地震が起るとは思っていなかった。鳥取県の復興を願っています。がんばってください。

高田 浩子



手話パフォーマンス甲子園に出場した池田さんです。出場した時は、まさか地震が起きるとは思っていなかったのですが、今になってこの様な災害が起るとは、とても悲しいです。皆様は大丈夫でしょうか。何か助けになることがあれば、是非とも教えてください。一刻も早く復興できますように、1つ1つ祈っています。東京から応援しています。By 池田さん

平成29年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会 出席者名簿

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠
会 長	鳥取県知事 (鳥取県副知事)	平井 伸治 (野川 聡)	欠
委 員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 事務局長	久松 三二	出
	日本財団 理事長	尾形 武寿	出
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 理事長	下垣 彰則	出
	鳥取県商工会議所連合会 会長	藤縄 匡伸	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部 支部長	福田 幸夫	出
	鳥取県教育委員会 教育長	山本 仁志	出
	鳥取県福祉保健部長	藤井 秀樹	出
事務局	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長 (企画推進会議 委員長)	宮本 則明	
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 社会参加推進室長	明場 達朗	
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 課長補佐	竹ノ内 司修	
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 係長	安永 孝文	